

相生学院高等学校「総合的な探究の時間」通信教育実施計画書

諸法規等
・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学校関係諸法規 ・学習指導要領

生徒の努力目標
・ひとりひとりがよりよい生き方を考え、主体的に進路選択ができるようになる。 ・広い範囲に興味関心を示し、視野を広げる中で自身の適性の幅を広げる。 ・予測不能な時代における自己の生き方・在り方を考え、適切に将来の進路を選択・決定する力を養う

《 校 訓 》
文武一道 夢実現

教育理念
相生学院高等学校は、身体教育と情操教育と技能・知識教育との調和が、全ての教育の根幹と考える。ひとりひとりが、健康な身体と健全な価値観を備え、自ら学び、志を得、行動し、豊かな社会の実現に貢献できるようになったとき、われわれのまちや国は理想の社会となるのである。相生学院高等学校では、このような社会の実現に寄与すべく、一意専心の心構えで教育に当たる。

教育目標
一、 自ら学び、生きる原動力に変えることの出来る人材を育成する。 一、 自ら考え行動し、己を源とすることのできる人材を育成する。 一、 独立自尊の気概を持ち、自他を愛することの出来る人材を育成する。 一、 国際感覚が豊かで、世界平和に貢献できる人材を育成する。

総合的な探究の時間の目標
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。 (2) 実社会や実生活と自己との関りから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

総合的な探究の時間を通して育てようとする資質や能力及び態度
・自己の適性や能力、自己と社会との関わりについて課題を研究することができる。 ・自ら学ぶ姿勢をもち、体験活動やキャリア教育を通じて勤労観、職業観を身につける。 ・自分の役割や集団で果たすべく自己の役割を理解し協力の姿勢を身につける。

生徒の実態
通信制の特性を生かし、部活動や自分の特技に時間を割いてスキルの向上を目指し日々努力してる生徒の姿が多い。一方では、不登校や人間関係でのトラブルなどの心の悩みを抱えて他校からの転編入してくる生徒も多い。しかし、入学後はその挫折をバネに、自分の進路の目標を明確にし前向きに取り組む姿も多く見られる。

保護者や教師の願い
・高等学校の卒業資格の取得だけが目的ではなく、その後の人生設計の中で、自分の欲する進路の実現をかなえさせたい。 ・精神的なサポートを含め、個を尊重する中で人間的な成長を見守りたい。 ・他者とのかかわりを尊重し、社会に貢献できる人材として成長してほしい。

年次	名称	目標	学習内容	指導方法 ・指導体制	評価の観点 ・基準・方法	添削指導 (レポート)	面接指導 (単位時間)	実施時期
1年次 ～ 3年次	私たちと情報社会Ⅰ	将来の就職に備えてIT知識の習得は必要不可欠である。国家試験「ITパスポート」の合格を目指すことで、将来の職業人として必要なITに関する基礎知識を習得させ、優秀な人材を育成する。	国家資格「ITパスポート試験」で問われる知識エリア全般を中心に、情報分野の基礎的な理論（基数変換、ディジタル化など）や一般法令とその考え方、コンピュータとその初歩的技術要素を学ぶ。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	6回	2時間	複数回実施
	私たちと情報社会Ⅱ	ICT・IoTやAIを主体的に活用していくこれからの情報社会について考え、それに伴う情報モラルや最新トピックを、昨今の社会の変化に合わせて幅広く学ぶことを通して情報社会に主体的に参画する態度を養う。	「私たちと情報社会Ⅰ」での学習を基礎とし、新たに組織や会計、経営やマーケティングなどの知識エリアにも触れ、そもそも社会とはどのようなものか、を社会(組織)側の視点を通じて考える。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	6回	2時間	複数回実施
	私たちと伝統・文化Ⅰ	伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を身に付け、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付ける。	陶芸の工程や歴史について学んだ上でお皿やカップ等一人1作品制作する。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	2回	2時間	6月～1月
	私たちと伝統・文化Ⅱ	郷土や国で育まれてきた優れた伝統と文化などのよさについてさらに理解を深め、それらを育んできた我が国や郷土を愛するとともに、国際的な視野に立って、他国の生活習慣や文化を尊重する態度を養う。	絵付けの工程や歴史について学習した後、白磁のお皿またはカップに自由に絵付けをする。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	2回	2時間	6月～1月
	文化交流と国際理解Ⅰ	国際的規模の相互依存関係の進展する国際社会において、国際的視野に立って、他国の生活習慣や文化を尊重する態度を養い、国際社会の中で独自性を持ちながら差別のない国際社会の平和と発展、地球環境の保全に貢献できる態度を身に付ける。	人権や環境問題など世界にある問題について学び、国際社会に生きる一員としての自分の在り方を考える。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	2回	2時間	9月・11月
	文化交流と国際理解Ⅱ	世界文化遺産についての映像視聴や講義を通して、海外の文化や自然について幅広く学ぶことで、異文化に対する理解と態度を身につけ、国際理解の精神と平和を大切にする心を養う。	世界遺産のなかで「水」について学び、国際社会に生きる一員としての自分の在り方を考得える。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	2回	2時間	9月・11月
	私たちとこれからの社会	各種職業の見学や講演会、大学訪問や進路研究などを通して、将来の目標を生徒が自ら探していくことで、進路への関心を喚起するとともに、生徒のモチベーションを高め、これからの社会の展望を通して、自分の目標設定を行うことができる能力を養う。	エゴグラムを用いた学習により、自分に気づき、より良く生きるためにどうすればいいかを考える。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家、卒業生と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	2回	2時間	9月・11月

各教科
・基礎学力をつける ・学力の向上を図る ・学ぶ意欲を向上させる ・資格および検定の取得を目指して学習する ・課題設定能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力をつける ・「公民」及び「特別活動」を、人間としての在り方生き方に関する教育を通して行う道徳教育の中核的な指導の場面として関連付ける。

特別活動			
学業と進路	ホームルーム活動	儀式的行事	文化的行事
相生学院のガイダンス機能を高め、全教職員で生徒個々の進路実現の支援にあたる。 ・情報提供の機会と進路相談の充実を図る。 ・生徒指導の視点を含め、保護者を巻き込んだ三者懇談を実施する。 ・特別活動・総合的な探究の時間との連携を図る。 ・ハローワーク、e-WORK等、関係機関との効果的な連携を図る。 スクーリングを通じ、望ましい集団活動と健全な生活習慣を確立する。また、集団の一員としての自覚と、規律ある生活態度を育てる。 ・人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	自立から独立と生き抜く一力の醸成を目指す。自己の生き方についての考えを深め、自己に活かす能力を養う。	帰属意識を高め集団の一員としての自覚を促す。互いに協力し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてのよりよい人間関係の育成を図る。	芸術に身近に接し、文化的にも豊かな心を育む。伝統文化の継承に向けた自主的な取組を通じて、地域の一員として活動しようとする意欲を養い、郷土を愛する態度や心を養う。
健康安全体育的行事	校外学習	勤労生産奉仕活動	
健康に関わる学習・体験を通して、生徒同士や地域の方とよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる。	進んで人と交わり、その中で自己の役割を認め、理解し信頼しあえる人間関係を形成し、自主的・実践的な態度を育てる。	風光明媚な相生学院高校の整美活動に関わることを通して、勤労・奉仕の心を養い、母校を誇りに思いうちを満喫する。自然へ働きかける人間の技と文化を体感的に学ぶ。	

地域や家庭等の連携
・学校自己評価の公開を行い、本校教育活動の理解を求める。 ・地域行事を大切にし、伝統ある行事に関心を持たせ、積極的に参加する態度を養う。 ・道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりすることを通して家庭や地域社会の共通理解を深める。